

「あなたの当たり前は、誰かの魅力かもしない…」

地元の良さ、再認識



大田原通信

大田原市移住・定住交流サロン通信

大田原に住んでいる私たちが「当たり前」と思っていること…。それが移住してきた人にとっては「魅力」に感じられています。この通信では、そんな大田原の魅力について、毎月1回お伝えしています。

竹工芸 をつないでいきたい

— 移住して竹工芸に励む — 石毛みほさん

千葉県出身。それまで竹に触れることがなかった一人の女性が、2016年、大田原に移住し、竹工芸に励んでいます。竹林に入って竹を切るところから、竹の油抜き、天日干し、竹割り、幅決め、厚さ決め、面取り…すべてを手作業で行う石毛さんに、「竹工芸」に対する想いを伺いました。



縫うイメージがある竹工芸だが、実際は持ち上げて入れるという作業に近い。

●伝統工芸との出会い

石毛さんー「伝統工芸の継承者がいないというのを、時々テレビで見ていて、気になっていました。それで日本橋の三越で日本の伝統工芸展をやっている時は見に行ったりしていて。この中でやるならどれだろう…? 理由はわからないのですが、そんな風に思っていました。やってみたら、とんでもなく難しかったんですけど(苦笑)。」

●大田原への道のり

趣味で籠工芸の教室に通っていた石毛さん。これでは仕事にならないと考え直し、竹の世界に入っていく。

石毛さんー「竹工芸が盛んな大分の竹の学校に行くか、地域おこし協力隊を募集していた大田原市に行くか考えて、実家の千葉に近い大田原市地域おこし協力隊に応募しました。」

●人々を魅了する竹の力

協力隊になり、竹割りに不可欠な鉈(ナタ)すら持ったことがないところからスタート。様々な先生のもとで学んでいく中、竹工芸に強く惹かれる人たちと出会う。

石毛さんー「趣味でやっている方も竹割りからやったり、良い竹林を見つけると竹を切らせてもらえるかどうか、飛び込みで交渉しに行ったり。そのパワーがすごいなと。そこまでしてしまう程、竹はすごく魅力的なんだと思います。」

●あの竹が？！石毛さんの感じる竹工芸の魅力とは？

石毛さんー「その辺に生えているものが籠になるっていうこと。タケノコなら食べようっていうのはわかるんですけど、竹を割って籠にしようっていう発想というか、使えるって気づくのがすごい面白いなって思うんです。竹は生えてるままだと固そうで全然編めそうに見えないけど、どんな形にもできるんじゃないかなっていう位、曲がるんで。」



編んでいく作業。竹ヒゴは適度に湿っていた方が折れにくく、かみ合うそう。



この繊細な作品を作る上で一番難しいことは、最初に行う竹割り(半分に割る作業)なんか。石毛さんー「最初の一割が大切と言われています」

●追求していく姿勢

今年度、栃木県芸術祭に入選した石毛さん。その他の公募展にも積極的に出品したいという理由を伺った。

石毛さんー「自分で作って売るだけだと、進歩がないというか…。皆さん、使ってみないとわからない部分もあるので、その場では何も言わないで買ってくださるじゃないですか。でも、公募展に出すと、こうした方がいいよとか教えてもらえる。いいね～で終わってしまうのは逆に怖いんです。」

●目指す先にあるもの

石毛さんー「現時点では、ちょっとでも竹工芸や伝統工芸に興味を持つてもらえたらいなと思っています。それから、最初に三越で見て伝統工芸に憧れたから、三越に作品を並べるのも目標。伝統工芸をつないでいきたいという想いから始めたので、最終的には次の人に伝えたいです。」



栃木県芸術祭で入選した石毛さんの作品。蓋に編みこまれているデザインは青森の「こぎん刺し」からヒントを得たという。

石毛さんの活動はコチラ

石毛さんの活動の様子は
インスタグラム (@ishigemiho)
でご覧いただけます。
※スマートフォンなどで読み取ってご覧下さい。



全国竹芸展 Web作品展

2021年12月～2022年8月末

本市は出展作品を通じて竹文化の発展を目指しています。今年度はコロナ禍という状況下により、Webでの開催となります。



私自身、大田原に移住して、竹には切る時期があることや様々な工程があることを知り、竹工芸がグッと身近になり、より興味を持って見るようになりました。竹工芸は大田原が誇れる手仕事の一つ。できあがった作品だけではなく、その工程を気軽に知ることができる「場」があったらいいなと石毛さんの作業を見学させていただいて感じました。そして、素晴らしい先生や先輩のもと、石毛さんのような若い方がどんどん育つことによって、大田原の竹工芸はますます面白くなる！そんな気がする今回の取材でした。（白井）

お知らせ



おおたわら日曜朝市

地元有志らが集まり、18年前から毎月第4日曜日に開催。

ステージあり、おいしいモノ、野菜、クラフトなどが集まります！

日時：11月28日（日）8時～13時

場所：山の手鍼灸整骨院駐車場／大田原市山の手1-6-3

お問合せ：NPO法人ナチュラル／Tel：0287-24-0999

地域おこし協力隊も
参加させていただきます

※新型コロナウイルス感染症の状況により、延期させていただく場合がございます。



出展者・出演者
募集中！



お持ちの空き家を

空き家バンク

で活用してみませんか？

「空き家バンク」は、所有している空き家の情報を登録していただき、利用したい方に情報提供する制度です。

詳しくは下記の担当課にご連絡ください。

建築住宅課

Tel：0287-23-1916

お問い合わせ

大田原市の移住相談窓口
大田原市移住・定住交流サロン

大田原市役所 総合政策部 政策推進課
大田原市本町1-4-1 大田原市役所A別館2階
Tel：0287-23-8794
Mail：salon@ohtawara-ijyu.jp

大田原の暮らし、地域情報など発信中！



掲載したい情報を寄せください！